おおきに！ KANSAI 関西

「ナニワのエジソン」番外編　売れんけど 情熱は買ったで

まだまだ勝手に 関西遺産

「ナニワのエジソン」と呼ばれる大阪府八尾市の木原健次さん（82）は、キャリア約40年の珍発明家。生み出された知恵は約6千。一つだけ商品化されました。それは子ガメが成長して大海で生き残る確率より低く、まさに珍事。商品化した旭電機化成の専務で発明学会理事の原守男さん（62）に聞きました。

――木原さんの珍発明の第一印象は

心から笑える発明だけど、製品にして売れるものは一切ないなあ。おそらくどこの企業も製品にするのは無理ちゃうんかなと思った。

――それでも商品化しました

今まで一つも商品化されたことがなく、「発明品をぜひとも商品化してほしい」と頼まれまして。ここまで来たらなんとかやるしかないというノリ、熱意。我々もアイデアグッズを作る会社だから、ゲテモンから何か生み出すのは苦手じゃない。

――木原さんってどんな人

紳士的で常識人ですが、発明はボーンと突き抜けて面白い。世間から「変人や」とばかにされても、「かめへん」と割り切っている。でも他人をばかにしない。哲学的。みんなを明るくしてくれるから好かれる。奥さんも漫才師みたい。ぼやき漫才みたいな夫婦。ええかっこせず、本音なところが関西らしい。関東ではここまでの珍発明はないと思う。

――どこか芸人的ですよね

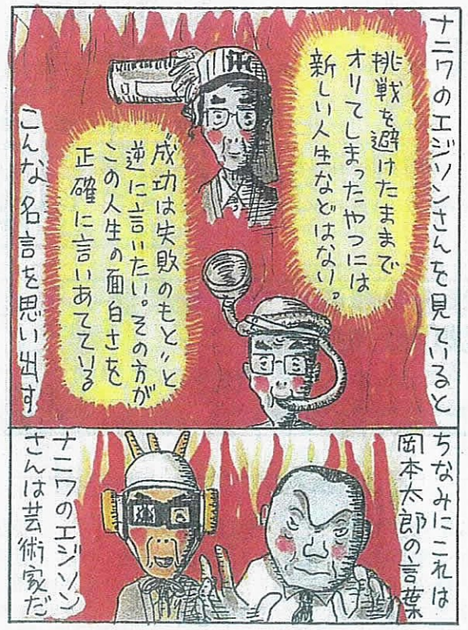
タレントのようなところがある。テレビ番組でご一緒した芸人さんも、木原さんのことを「しょうもない芸人より芸人です」と言っていました。

――社外からアイデアを持ち込む人も多いとか

構想を15年間練って、思いあまって訪ねてくる人もいます。「製品化してくれ」ともものすごい迫力とエネルギーをぶつけられる。馬力に押されて「そんなに言うんやったらやりましょか」となることはあります。（ものづくりや商売は）人と人なんで。作っても面白くなければ、存在価値がない。熱くなれる商品作りをしたい。

――数々のアイデアグッズがテレビ番組で紹介されていますね

「大阪ほんわかテレビ」（読売テレビ）や「マツコの知らない世界」（TBS）などいろいろ出してもらっています。関西テレビ「よ～いドン！」の「となりの人間国宝さん」にも選んでもらいました。（聞き手・土井恵里奈）



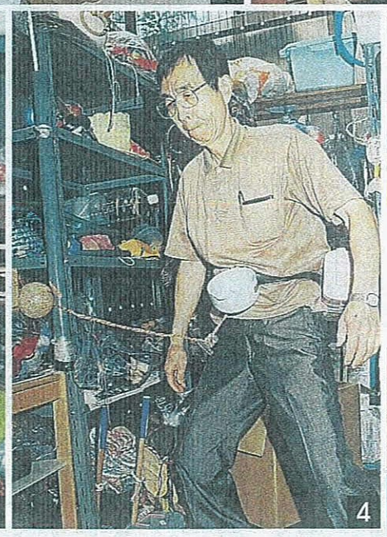
絵・グレゴリ青山

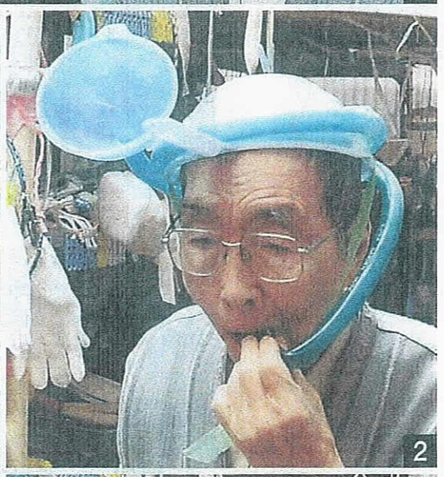
串抜き皿　皿のふちの切り込みに串を通すと、身から串をスッと抜ける。唯一商品化された

6

1

5


4


2

3

1 顔面ピンポン　ラケットが付いたザルを顔につけ、ピンポン球を顔ごと跳ね返す。目をつむらず、見開いてプレーするのがコツ

2 「おちゃっぱー」シリーズ　急須を使わず、茶こしやホースをくわえて茶を飲む道具。これは帽子のようにかぶって使うタイプ。最新作は無線操縦装置を駆使して改良したが、うまくいかない

3 虫よけマスク　網を顔に着けて歩けば、飛んでくる虫も気にならない

4 腰フリフリバンド　腰を振ってボールをひしゃくに入れる。腰の反動でおもちゃの金魚をすくう道具を改良した

5 ヒソヒソナイショバナシ　内緒話をする道具。目立ちすぎるのが難点

6 フウフウ帽子　ラーメンなどを食べる時にかぶる。猫舌の人は、耳のそばにある換気扇で冷ます。目の前にティッシュ、後頭部にはくず入れの袋も

9日付の「まだまだ勝手に関西遺産」では、ツッコミ所満載の木原さんの珍発明を取り上げました。やっていることが面白すぎて、「もう声を上げて笑ってしまい、新型コロナで鬱屈（うっくつ）としていた気分がパ～っと晴れました」などと感想も頂きました。「1回限りでは物足りない！」という声に応えるため、珍発明の数々を番外編としてご紹介します。